

# は し が き

## 〈本書のねらい〉

公務員試験・資格試験を目指す方の中には、経済学は理解が難しく苦手だという方も数多く見受けられます。しかし、経済学は段階を踏んで理解していけば、決して得点できない科目ではありません。本書は経済学の初歩から丁寧に説明しています。一步一步階段を上るように無理なく学習を進めていくことで、本書を終えるころにはきっと経済学を得点源とすることができるでしょう。

本書はミクロ経済学編となります。マクロ経済学については別冊になっています。

## 〈本書の対象〉

公務員試験をはじめ、不動産鑑定士、中小企業診断士、証券アナリスト、公認会計士といった経済系の資格を目指す方など、経済学を理解したい方に幅広くご利用いただけます。

## 〈本書の特長〉

### 1 経済学のベテラン講師によるわかりやすい解説

本書は長年LEC公務員講座で経済系科目を担当している宮本裕基LEC専任講師による書き下ろしです。長年の経験から得られた経済学理解のポイント、コツを伝授します。

### 2 対話形式でわかりやすい解説

本書はユウゾウ先生と生徒のマナブ君、アキコさんとの会話形式になっています。初学者が抱きがちな疑問点について、ユウゾウ先生が語りかけるように解説します。

本書をご活用いただき、最終合格を勝ち取られることを心より祈念しています。

2007年3月吉日

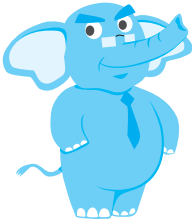
株式会社 東京リーガルマインド  
LEC総合研究所 公務員試験部

## はじめに

資格を取得してキャリア・アップや転職、起業をしたい！ 公務員試験に合格して公務員になりたい！ この本を手にするほとんどの方々は、そんな思いを持っていらっしゃると思います。しかし、特に文系学部出身者や大学での学問から離れてある程度の時間が過ぎていての方にとって、第一印象が最も“良くない”科目は、経済学なのです。短い時間で合格に足る実力を身に付けたい！ と思っている皆さんからの声を集約してみると、学習を始める前に最も難しそうでも最長時間がかかりそうに見える科目が経済学、経済原論のようです。なぜなのでしょうか？

数式が出てくる、グラフを活用しなければならない、用語が難しそう、暗記だけでは点が取れないらしい、新聞やニュースを聞いて最も難しくてわかりにくいテーマが経済関連のものだ、等がその理由としてよく挙げられます。どれもある程度は当たっていると思います。ところが不思議なことに、講義を聴いて、そういった点を乗り越えた後には得意科目になってしまう方が多いのも経済学なのです。ただし、きっと自学自習だけではそのようになることは難しかったのではないかと思います。やはり講義形式での、講師と受講生との間の様々なやりとりや休憩時間中などにおける受講生との質疑応答が大きなポイントなのでしょう。

そこで本書では、講義形式・会話形式で学習が進みます。生徒であるマナブ君とアキコさんからの質問や疑問は、日頃から受講生が抱きやすいものばかりで、そしてそこには、経済学を理解するうえでの重要な考え方が潜んでいるのです。登場するキャラクターについて紹介します。



### ユウゾウ先生

資格試験を目指す受講生をサポートする講師としての経験から、優しくわかりやすく経済学を教えてくれる。具体例を豊富に出して、身近なものをイメージしながら効率的に理解してもらえることを目指している。



### マナブ君

ちょっぴり数学に苦手意識を持っているけれど、元気に素直に前向きに経済学に取り組んでいて、どんどん質問してくる憎めないキャラクター。



### アキコさん

成績優秀で学級委員長タイプの容姿端麗(?)なキャラクター。素直な性格で、時々先生をびっくりさせる鋭い質問をする。

この生徒たちに共感をしていただきながら、読み進むにつれて経済学の基本的な考え方を身に付けてもらえたら、私としては最高です。そしてまたいつか、過去問を実際にどんどん解けるようになることを目指した本が、この続編として出版されて皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

それでは、経済学という長い道のりに元気で旅立って行ってください！

2007年3月吉日

LEC 東京リーガルマインド専任講師  
宮本裕基

Part 4	1-3-4	個別需要曲線の導出	89
--------	-------	-----------	----

## Stage4 需要曲線について 91

Part 1	1-4-1	市場需要曲線の導出	92
--------	-------	-----------	----

Part 2	1-4-2	需要の価格弾力性	95
--------	-------	----------	----

## Stage5 “最適消費”の応用 103

Part 1	1-5-1	最適労働供給量の決定	104
--------	-------	------------	-----

Part 2	1-5-2	異時点間の最適消費行動	109
--------	-------	-------------	-----

# ●●● 第2部 生産者の行動 ●●●

## Stage1 生産者の行動の枠組み 113

Part 1	2-1-1	“生産者”を理解するために	114
--------	-------	---------------	-----

Part 2	2-1-2	生産関数と限界生産力	116
--------	-------	------------	-----

## Stage2 利潤最大化行動 123

Part 1	2-2-1	利潤とは	124
--------	-------	------	-----

Part 2	2-2-2	売上（総収入）と価格について	126
--------	-------	----------------	-----

Part 3	2-2-3	総費用	128
--------	-------	-----	-----

Part 4	2-2-4	平均費用，平均可変費用，限界費用	132
--------	-------	------------------	-----

Part 5	2-2-5	供給曲線の導出	140
--------	-------	---------	-----

Part 6	2-2-6	損益分岐点，操業停止点	144
--------	-------	-------------	-----

# ●●● 第3部 完全競争市場 ●●●

## Stage1 市場の均衡 151

Part 1	3-1-1	完全競争市場の成立条件	152
--------	-------	-------------	-----

Part 2	3-1-2	市場における“均衡”とは	156
--------	-------	--------------	-----

Part 3	3-1-3	完全競争市場における短期均衡と長期均衡	158
--------	-------	---------------------	-----

## Stage2 市場の安定性 163

- Part 1 3-2-1 ワルラス的調整過程 ..... 164
- Part 2 3-2-2 マーシャル的調整過程 ..... 167
- Part 3 3-2-3 クモの巣理論 ..... 170

## Stage3 市場での均衡に対する評価 175

- Part 1 3-3-1 余剰分析 ..... 176
- Part 2 3-3-2 課税政策がもたらすもの ..... 182

# 第4部 不完全競争市場

## Stage1 不完全競争市場について 185

- Part 1 4-1-1 不完全競争市場とは ..... 186
- Part 2 4-1-2 不完全競争市場の分類 ..... 188

## Stage2 独占市場 191

- Part 1 4-2-1 独占企業の行動 ..... 192
- Part 2 4-2-2 利潤最大化条件“ $MR=MC$ ”からわかること  
～“ $P=MC$ ”との関係および「ラーナーの独占度」～ .. 196
- Part 3 4-2-3 余剰分析 ..... 198
- Part 4 4-2-4 差別独占（差別価格政策） ..... 201
- Part 5 4-2-5 独占的競争市場 ..... 205

## Stage3 複占市場 209

- Part 1 4-3-1 クールノー均衡 ..... 210
- Part 2 4-3-2 シェア維持のケース ..... 214
- Part 3 4-3-3 シュタッケルベルク均衡 ..... 217

## Stage4 寡占市場 221

- Part 1 4-4-1 屈折需要曲線 ..... 222
- Part 2 4-4-2 フル・コスト原理 ..... 225

Part 3	4-4-3	売上高最大化仮説	227
Part 4	4-4-4	ゲーム理論	229

**第5部 市場の失敗**

**Stage1 市場での“失敗”と“成功”** 237

Part 1	5-1-1	より良い市場を目指して ～余剰と効率性～	238
Part 2	5-1-2	パレート最適	240
Part 3	5-1-3	エッジワース・ボックス・ダイアグラム	244

**Stage2 公共財の存在** 253

Part 1	5-2-1	公共財とは	254
Part 2	5-2-2	最適供給量の決定	260
Part 3	5-2-3	【補論】最適供給量の決定についての再考	268

**Stage3 外部効果の発生** 273

Part 1	5-3-1	外部効果とは	274
Part 2	5-3-2	外部経済と外部不経済	277
Part 3	5-3-3	ピグー的政策	283
Part 4	5-3-4	コースの定理	293
Part 5	5-3-5	【補論】その他の解決方法	297

**Stage4 費用逡減産業の存在** 303

Part 1	5-4-1	費用逡減産業とは	304
Part 2	5-4-2	限界費用価格形成原理	310
Part 3	5-4-3	平均費用価格形成原理	313
Part 4	5-4-4	【補論】現実的な解決方法	316

**Stage5 情報の不完全性** 321

Part 1	5-5-1	逆選択	322
Part 2	5-5-2	モラル・ハザード（道徳的危険）	327

## 第6部 国際貿易論

<b>Stage1</b>	<b>貿易政策の比較分析</b>	<b>333</b>
Part 1	6-1-1 閉鎖経済体制と自由貿易政策	334
Part 2	6-1-2 自由貿易と保護貿易（関税）	338
<b>Stage2</b>	<b>比較優位説</b>	<b>347</b>
Part 1	6-2-1 リカードの比較優位説	348
Part 2	6-2-2 交易条件の確認	354

## INDEX

## マクロ経済学 目次

講義を始める前に…

第1部 国全体の経済活動

第2部 財市場の分析

第3部 貨幣市場の分析

第4部 財市場と貨幣市場の同時分析

～IS-LM分析～

第5部 労働市場の分析

第6部 財市場, 貨幣市場, 労働市場の同時分析

～AD-AS分析～

第7部 インフレについて

第8部 国際マクロ経済学

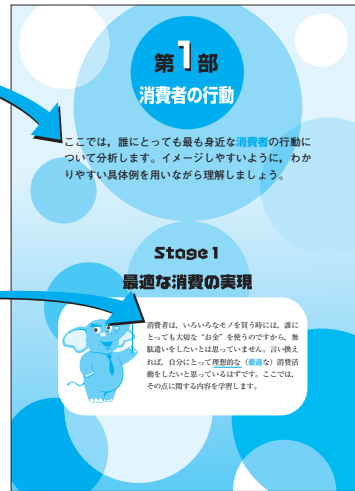




# 本書の効果的活用法

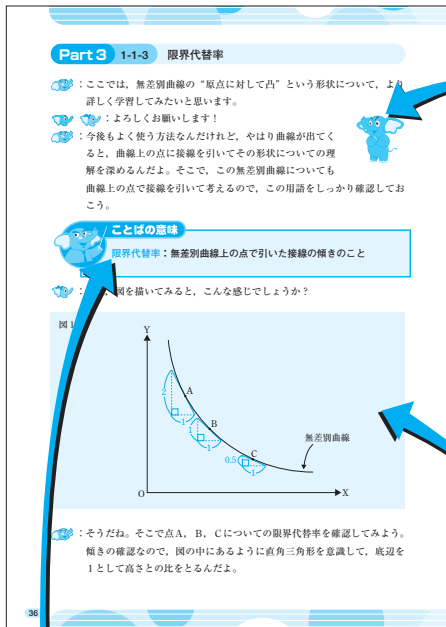
## 部ガイドンス

経済学を初めて学習する人にとって“スッキリと”理解できるように、各部でどのような内容の学習をするのかについて整理しました。



## Stageガイドンス

各Stageで理解すべき内容や学習すべきポイントについてまとめました。



## 本文

ユウゾウ先生とマナブ君、アキコさんが会話しながら学習を進めています。ユウゾウ先生の過去の経験や、いろいろな生徒さんたちから受けた過去の質問、誰もが間違えそうな部分を織り交ぜながら、3人(3頭?)の性格を楽しみつつ会話を読み進めましょう。みなさんもいつの間にか経済学についての理解を深めてしまってください!

## 図表

経済学を“スッキリと”理解し、本試験の問題を“スッキリと”解くために、図や表はとても大事な“武器”です。何度も何度もよく見て、自分で描いてみることも良いでしょう。

## アイコン

ユウゾウ先生の出番のところですね。詳しくは、次のページを見てね!

### Exercise

国家Ⅱ種行政職 2001年

ある財の需要関数が、

$$x = 180 - 4p \quad [x: \text{需要量}, p: \text{価格}]$$

で与えられるとする。

ここで  $p = 25$  とすると、価格が 4% 上昇した場合に需要量は何% 変化するか。

- 1 4% 低下
- 2 4% 増加
- 3 5% 低下
- 4 5% 増加
- 5 6% 低下



### 解説 正解 3

需要の価格弾力性  $E_p$  は、

$$E_p = -\frac{\Delta x/x}{\Delta p/p} = -\frac{\Delta x}{\Delta p} \frac{p}{x} \dots\dots ①$$

と定義される。いま、需要関数の傾きは  $-\frac{1}{4}$  だから、その逆数を  
とって、

$$\frac{\Delta x}{\Delta p} = -4$$

である。また、 $p = 25$  のとき、需要量は  $x = 180 - 4 \times 25 = 80$  である。  
これらを①に代入すると、

### Exercise

最新の本試験からセレクトした過去問です。基本的で標準レベルの問題を選びましたので、理解した内容の確認にぜひ活用してください!

### 解説

理解してきたはずの内容を思い出しながら読んで、正解を確認してください。不明な点があったら、もういちど本文を読み直してみてね! きっとヒントが見つかるはずだよ!

### ポイント

経済学を理解するうえでとても重要で“はずせない”部分の確認です。しっかり頭に入れてしましましょう!

### 公式

特に計算問題に対応するうえで、“そのまま暗記してしまうとお得”な箇所をピックアップしました。

### ことばの意味

経済学として重要とされている用語の意味を確認しました。何度でも見直してください!

### 補足

文字通り、ちょっとした補足です。みなさんにとって、参考になりそうなことにふれてみました。気軽に読んでみよう!

### アドバイス

ミスしやすいところ、勘違いして覚えてしまう人が多いところについて、ミスや勘違いを防ぐために確認しました。



### web 1

先生が特につまづきやすいところをweb講義でワンポイント解説しています。詳しく勉強したい人は、ネットからアクセスして確認しよう! 下の数字は講義番号です。

# 難易度 & 出題予想率



## 難易度について

各種の資格試験合格を目指して学習する初学者からの声や模擬試験での結果などに基づいて、各ステージでの習得難易度を表示しました。易しい内容→難しい内容という順にA→B→C→Dとしてあります。



## 出題予想率について

資格試験別に近年の過去問のデータに基づいて出題される可能性を予想して表示しました。予想される可能性の高いもの→低いものという順に◎→○→◇→△としてあります。

	難 易 度	資格試験別の出題予想率						
		国 I	国 II	地 上	国 税	公 認	中 小	不 動
<b>第1部 消費者の行動</b>								
Stage1 最適な消費の実現	A	◎	○	◎	◎	◎	○	○
Stage2 所得の変化が与える効果	B	○	○	○	◎	○	○	○
Stage3 価格の変化が与える効果	C	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
Stage4 需要曲線について	B	○	◎	○	○	○	○	◎
Stage5 “最適消費”の応用	D	◎	○	◎	◎	◎	△	◎

第2部 生産者の行動									
Stage1	生産者の行動の枠組み	B	○	○	○	○	◎	○	○
Stage2	利潤最大化行動	C	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
第3部 完全競争市場									
Stage1	市場の均衡	A	○	○	○	○	○	○	○
Stage2	市場の安定性	B	○	◎	◎	○	○	○	○
Stage3	市場での均衡に対する評価	C	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
第4部 不完全競争市場									
Stage1	不完全競争市場について	A	○	○	○	○	○	△	○
Stage2	独占市場	B	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
Stage3	複占市場	C	○	○	○	◎	○	○	○
Stage4	寡占市場	C	◇	◇	○	○	○	○	◎
第5部 市場の失敗									
Stage1	市場での“失敗”と“成功”	B	◇	○	○	○	△	○	○
Stage2	公共財の存在	B	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎
Stage3	外部効果の発生	D	◎	◎	◎	○	○	◎	◎
Stage4	費用逓減産業の存在	C	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
Stage5	情報の不完全性	B	○	◇	◇	○	◎	○	○
第6部 国際貿易論									
Stage1	貿易政策の比較分析	B	◎	◎	◎	◎	△	○	◇
Stage2	比較優位説	A	◇	◎	◎	○	△	◇	◇

(注)表内で用いられている省略表示の意味は、以下の通りです。


国Ⅰ→国家Ⅰ種行政職試験、国Ⅱ→国家Ⅱ種行政職試験、地上→地方上級試験、国税→国税専門官試験、公認→公認会計士試験、中小→中小企業診断士試験、不動→不動産鑑定士試験


## 講義を始める前に…


ここでは、ミクロ経済学の学習を始める前のウォーミングアップ&イントロダクションとして、いろいろなことを確認します。ミクロ経済学がどのような枠組みになっているのかを大筋で確認しておくためにも、最初に読んでください。

 : それではこれから、経済学の学習を始めましょう。

  : よろしくお願ひします！


 : まず、大切なことを確認します。いろいろな資格試験の中で“経済学”とか“経済原論”という名前の科目で出題されていますね。その科目で出題されている問題の中身は2種類に分けられ、**ミクロ経済学**と**マクロ経済学**と呼ばれます。本書では、ミクロ経済学についての学習をします。

 : どう違うんですか？


 : ミクロ経済学については、これからゆっくりと理解してもらえればいいので、ここでは省略しますが、マクロ経済学とは、“マクロ”が“大きく全体的に把握して理解する”という意味なので、「国全体の経済」に注目する経済学です。





 : たとえば、どんなことを学習するのですか？


 : そうだね…国民所得とか、GDP (Gross Domestic Product:国内総生産)とか、物価指数や失業率、といった言葉が出てくる経済学だね。


 : 何だか、難しそうだな…

 : まあ、マクロ経済学の話はこれくらいにして、ミクロ経済学の話にしましょう。これから始まる**ミクロ経済学**の“ミクロ”とは、英単語microscope (顕微鏡) の“micro-”の部分のことで“大きなものを細かくしてよく見る”という意味だと考えていいよ。

 : “細かくして”というのはどういう意味ですか？

 : それは簡単に言えば、「私たちが日頃から日常的に売買しているようなひとつひとつの商品や売買の結果に注目する」という意味なんだ。


 : えっ！ 日常の買い物でいいんですか？ たとえば、コンビニで買うペットボトルのお茶やお弁当とかでもいいんですか？


 : もちろん。だって買い物をするためには、必ずお金が必要でしょ？ そして我々は、お金を使えば“経済”活動をした、と思っているでしょ？


 : そうですね。ということは、ずいぶん身近な話でいいん




ですね！ 少しやる気が出てきたな…


 : だから、ミクロ経済学の“登場人物”の一番手は**消費者**で、第1部に登場するのは消費者なんだ。そして買い手である消費者は、**家計**と呼ばれることもあるから注意してね。


 : でも、私たちが何かを買いたい、としても売ってくれているお店がないと、どうにもならないわ…

 : そうだね。だからミクロ経済学の“登場人物”の二番手は売り手である**企業**で、第2部に登場するのは企業なんだ。そして売り手である企業は通常、**生産者**とも呼ばれるので、注意してね。




 : ユウゾウ先生、売り手を“企業”というのはわかりやすいけれど、どうして“生産者”なんですか？ 何だか、お米や野菜を生産している農家の人を指しているみたいじゃないですか…


 : いい点に気付いたね。実は、**経済学が想定している売り手である“企業”とは、主に製造業（メーカー）を指している**、と考えるとわかりやすくなるんだよ。

 : “製造業（メーカー）”というと、具体的には、自動車を生産している“トヨタ”とかパソコンを生産している“NEC”のことですよ。それでいいんですか？

 : そうそう！

 : それは、面白そうですね。でも、企業で働いたことがなくても大丈夫ですか？




 : もちろん大丈夫だよ。ただし、企業の中でいろいろな意思決定をしている人の気持ちになることを忘れないでね。

## ポイント

**ミクロ経済学**：日常の商品についての売買に注目し、売り手と買い手が主役として登場する**経済学**


 : つぎに、売り手と買い手が実際に売買する“場”に注目してみよう。

 : “場”ってお店じゃないんですか？


 : そうだね。デパートも、コンビニも、スーパーも確かにお店だから“場”

だね。けれども最近では、お店に行かなくてもいろいろなモノが買えるようになってきたね。

 : 私は通販で買うのも好きだわ。


 : そうそう。最近では、電話やFAX、インターネットを使って買い物を楽しむこともできるね。つまり、実際にお店に行かなくても売買は確かに成立しているよね。そういった具体的なお店や、抽象的なイメージで売買が成立するネットのような世界から、お店でなくても青果市場や魚市場などのような消費者が普通は目にしないような市場（いちば）まで、広く含めて、経済学では、そういった売買が行われる“場”を**市場（しじょう）**と呼ぶんだ。


 : 先生は、それが言いたかったんですね！



 : それだけではないよ。


### 補 足

「市場」という言葉のイメージが把握しにくかったら、「産業」と置き換えても、ミクロ経済学ではほとんど問題ない


 : たとえば、「自動車市場」は「自動車産業」と置き換えて理解しても問題ないってことですね！


 : そうそう！ それと、我々は“売買”という言葉を手軽に使っているけれど、経済学では使わないんだよ。


  : えっ！！ 本当ですか？


 : 実はそうなんだ。私は、説明の便宜上、わかってもらいやすいかな、と思ってついつい“売買”という言葉を使ってしまうけれど、試験の中では使われないんだよ。

 : 何て言うんですか？

 : **取引**という用語を使うんだ。


 : 企業の経済活動だけではなくて、我々のコンビニでのちょっとした買い物もそう呼ぶんですか？

 : もちろんそうだよ。150円でペットボトルのお茶を買ったとしても経済学としては立派な“取引”なんだよ。


 : へー！







 :そこで、ミクロ経済学に登場してくる3つ目の大切な視点は、買い手と売り手によって取引が行われる市場に注目して分析することなんだ。


 :それが第3部と第4部で行われるんですね。


 :詳しい話は後回しだけれど、完全競争市場と不完全競争市場という市場について学習するよ。




 :それで終わりにならないんですか？

 :実は市場というステージの登場人物は、主役は買い手である消費者と売り手である企業、生産者なんだけれども、他にも大切な第三の“登場人物”がいるんだ。


 :えっ？ 誰ですか？


 :日頃、ほとんど意識しなくても生活できるけれど、それは**政府**なんだ。





 :そうか…でも、たとえばどんな関係があるんですか？


 :たとえば、海外旅行へ行く時に何か考えたことはなかった？


 :えーと、航空運賃がもう少し安かったら大好きな海外旅行にもっと行けるんだけどなあ…ぐらいしか考えたことないですね…(苦笑)


 :では、もう少しヒントを出そうかな。君たちが東京で暮らしている時に、電気を使っているよね。


 :あっ！！ わかりました！ 値段が政府によって決められているんですね。

 :もう少し正確に言うと、料金規制がなされていて、上限の価格が決まっているんだね。


 :ニュースを見ていると、「航空会社によって航空運賃の値上げ申請が行われました」なーんて言ってました。航空会社は自分で航空運賃を決められないのかなあ…と思ったことがありました。

 :そうだね。つまり、実際に取引される商品にはいろいろな特徴があるので、その性質に基づいて、政府がいろいろなルールを決めて取引に対して規制をしているんだよ。そういったことについて考えていくのが第5部の「市場の失敗」というテーマなんだ。



 :ユウゾウ先生！ 最後の第6部は、海外とのさまざまな経済活動の結果について注目するんですね。

 : そうだよ。そこまで学習してきたマイクロ経済学の考え方を活用して国際経済の重要なテーマである貿易について考えて、ようやく終わりになるんだよ。

 : 何だか大変そうだな…

 : 大丈夫だよ！ どんなに高い山だって一歩ずつ気をつけて登れば必ず頂上に到達できるだろう？ それと同じだよ。登った後に見えてくる“風景”は、なかなか見晴らしがいいよ！



  : はーい！ 頑張ります！

